

# みんなで未来をつくる米！プロジェクト (in Nagoya)

(主催：自然栽培パーティ実行委員会 (ぽかぽかワークス))

#まちづくり、#地域活性化、#農業、#医療、福祉、#社会にいいコト、#障害者、#子ども・教育、  
#愛知県

## ◆ストーリー

- ・名古屋の都市農業をみんなで応援するプロジェクト。ひとりひとりができる応援をし、最後はみんなを笑顔にすることが目標です。
- ・名古屋の未来の農業を支える未来っこ（18歳未満）が主役で、未来っこが農業を通しながらエシカル消費を学び、それをみんなで支えるプロジェクトとなります。
- ・自然栽培で収穫できたお米はご飯で食べる意外にも「未来をつくる米」として、米粉やポン菓子など様々な商品にし、応援してくださる方々に還元したり、名古屋の新しいブランドとして展開していく予定です。



## ◆みんなで未来をつくる米！プロジェクトとは？

愛知県名古屋市中川区は、市内で2番目に広い田園地帯があります。しかし、年々宅地化が進んでおり、市街化地域にはほとんど田んぼがなくなってしまいました。また、農業者の高齢化は顕著であり、後継者のいない世帯が多く、遊休化している農地（耕作放棄地）も増えていました。

名古屋市の田んぼは、1959年9月26日の伊勢湾台風での教訓から、港区等では圃場整備が進みましたが、今回のプロジェクト場所である中川区供米田地域の田んぼは名古屋市の意向もあり、昭和の田園風景が残ったままの田んぼです。

今回の「みんなで未来をつくる米！プロジェクト」は、名古屋の都市農業が衰退してしまう前に、みんながそれぞれの応援方法で参加して名古屋の農業を守ろうとする取り組みです。そこには、未来を希望である

子どもたちの農業体験を中心に行っていく予定です。勿論、無施肥・無農薬の自然栽培でお米（イセヒカリ）を育てるため、子どもの健康を守り、地域の環境保全にも貢献します。

そして、そこで収穫したお米は、ご飯として食べるだけでなく、「未来をつくる米」を名古屋ブランドとして、色々な商品として展開していく予定です。

#### ◆自己紹介

初めまして。ぽかぽかワークスの工藤勉です。障害者の就労支援施設(就労継続支援B型)で農業に関わって5年が経ちました。最初は、何もわからず、地域の農業委員さんに「本気でやる気がないなら福祉が農業に手を出すな!」と言われたこともありましたが、それでも、一般社団法人農福連携自然栽培パーティ（通称「自然栽培パーティ」）で自然栽培(無施肥・無農薬栽培)の勉強をしながら、少しずつ、圃場を広げてきました。

自分たちが5年間で耕作放棄地を再生した面積は14,821㎡で、東京ドームのグラウンドの約1個分です。今では、「福祉の力で地域を盛り上げるぞ!」との意気込みを持って、農作業を行っています。ただ、夏は暑すぎて、正直、農業を辞めたくもなりますが、みんなで声を掛け合いながら、時に畑や田んぼで遊びながら農作業をしています。



#### ◆愛知県名古屋市の現状

名古屋市の田んぼは、ひとりひとりが所有している面積が非常に小さく、複数人で1枚1反（300坪）を所有していることが多いです地域です。また、田んぼについては、自作している人はほとんどいないため、耕作（代掻き～稲刈り）は委託業者さんに任ずることが多いです。

令和2年に名古屋市中川区供米田地域で策定された「人・農地プラン」の検討時の「供米田地域農地利用の

意向に関するアンケート結果」を見ると、「農業後継者がいない」が全体の7割であり、農業について抱えている課題として、

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| 1位 後継者がいない            | (61.5%) |
| 2位 高齢のため農作業ができない      | (46.2%) |
| 3位 経営が成り立たない          | (38.5%) |
| 4位 土地を相続したが、農作業の知識がない | (20.5%) |

と、1・2位は全国と共通する課題ですが、3・4位は大都市圏特有の悩みが占めています。そのため、農作業の知識がなく、委託業者さんも見つからないと、すぐに草や葎などが生い茂ったりしてしまいます。



除草作業中の写真(左)と除草後の写真(右)(2020年11月撮影)。中川区供米田地域(2.9ha)のうち、76aが遊休農地であった。

また、名古屋市中川区は水管理が本当に大変な地域です。地方によっては田んぼの水はパイプライン化が進んでおり、先進的な地域はスマートフォンアプリで水門などの開閉を行えたりもします。しかし、名古屋市中川区供米田地域は、昭和の風情がそのまま保存されているような田んぼのため、水管理も同様、昭和のままです。

この地域の所有者さんは、毎年、輪番制で農業・土木委員となって、水管理を行ってきました。しかし、高齢化が進み、輪番制の体制も維持することが難しくなってきました。そのため、昨年より、ぽかぽかワークスの職員が農業・土木委員となり、先輩委員から水管理の指導を受けました。令和4年度からは、農業土木委員の8名中7名をぽかぽかワークスの職員とメンバーが担当し、水管理をする予定です。



#### ◆自然栽培(無施肥・無農薬栽培)と農福連携自然栽培パーティ

自然栽培とは、無施肥・無農薬栽培のことです。つまり、エシカル農業のひとつである自然栽培ですが、「奇跡のリンゴ」で有名な木村秋則さんも障害者が自然栽培をしながらニッポンを元気にしようとする一般社団法人農福連携自然栽培パーティを応援しています。自然栽培パーティは、北海道から沖縄まで全国で約100団体が加盟しています。ぽかぽかワークスも5年前に加盟し、名古屋にて自然栽培に取り組んでいます。

#### ◆イセヒカリについて

1989年に伊勢地方を襲った2度の台風で、神宮神田「西八号田」のお米(コシヒカリ)は完全に倒伏しましたが、中央に2株並んでピンと立っていた稲があり、それを宮司によってイセヒカリと名付けられました。現状は、未品種登録で各県の奨励品種にはなっていないが、硬質米のため、その由来(皇室米)からも期待されています。食味の特徴は、粘りはコシヒカリより若干少なく、甘みを強く感じます。



#### ◆年間スケジュール

「みんなで未来をつくろ米！」プロジェクトは、下記のスケジュールでお米のイベントを計画しています。(それ以外の平日は、ぽかぽかワークスのメンバーで管理をします。勿論、支援者の皆様は、空き時間に農作業をして頂いても構いません。)

日程	内容
4月3W	オリエンテーション
5月4W	田植え
6月2W	草取り
7月2W	草取り
9月3W	かかしづくり
10月3W	稲刈り
11月3W	収穫祭(ごはんや味噌汁、ポン菓子で)
12月2W	藁遊び

また、イベントには、毎回参加して欲しいのですが、日程上、都合の合わない方もいらっしゃると思いますので、田んぼの様子ができるようSNS（Facebook, Instagram, twitter）にて情報配信をする予定です。また、ザリガニなどのふれあい体験なども企画する予定です。

昨年は、一般社団法人日本幼児食協会さんの「未来っこ」と「お米づくり体験」を行いました。（名古屋市 中川区元中野町）



#### ◆参加者（リターン商品等）

- ①未来っこ：ご縁（5円）、（お米1kg、ポン菓子）  
名古屋の未来の農業を守る未来っこ（18歳未満迄）
- ②応援しよう米（メンバー）：ご縁（5円）  
空き時間やイベント時の稲作に関わるコトのお手伝いをする人です。
- ③応援しよう米（サポーター）：5,000円（お米5kg、ポン菓子）  
お手伝いはできないけど、お米を購入して応援する人です。
- ④みんなでやる米（オーナー）：10,000円（お米10kg、ポン菓子、看板表記）  
自分が応援する区画(約40㎡)を決め、お米作りをする人です。
- ⑤みんなでやる米（パートナー）：50,000円～（お米30kg～、ポン菓子、看板表記）  
オーナーとして応援する団体等です。担当する区画・面積等は相談くださいませ。

#### ◆企業さんのご支援・ご参加もお待ちしています。

今年の2月8日に、株式会社Bride to be（ブライド・トゥー・ビー）さん（名古屋）が総勢30名で今回の中川区供米田地域に、「田んぼの畦作り」と「白菜畑の片付け」のお手伝いに来ていただきました。ぽかぽかワークスのメンバーと共同で作業ができ、本当に助かりました。今度は、未来っこの交流ができるよう、「みんなで未来をつくる米！プロジェクト」のご支援、何卒よろしくお願いします。



#### お問い合わせ先

ぽかぽかワークス 担当：工藤迄

052-398-6320